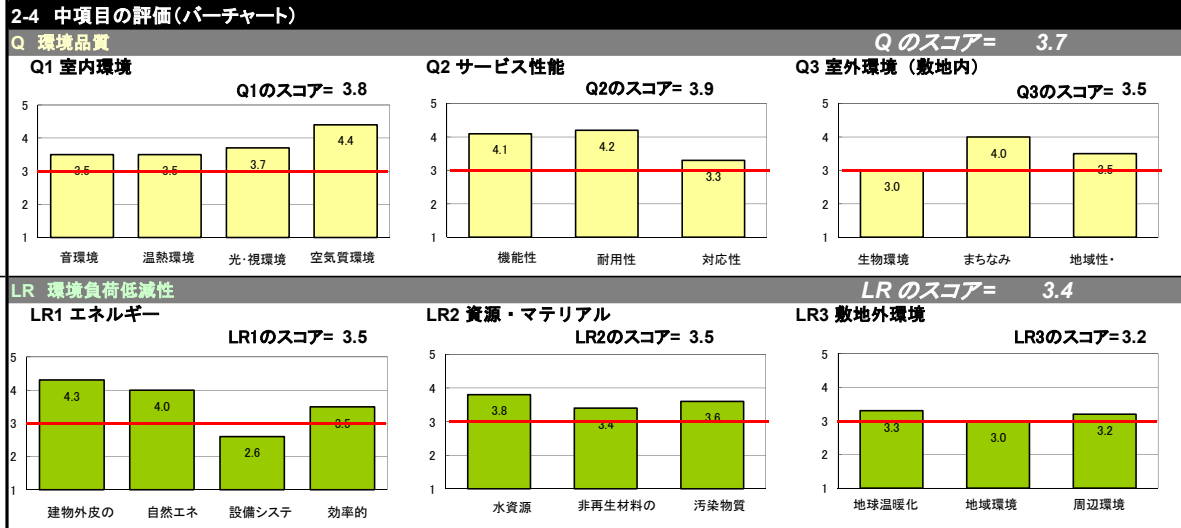
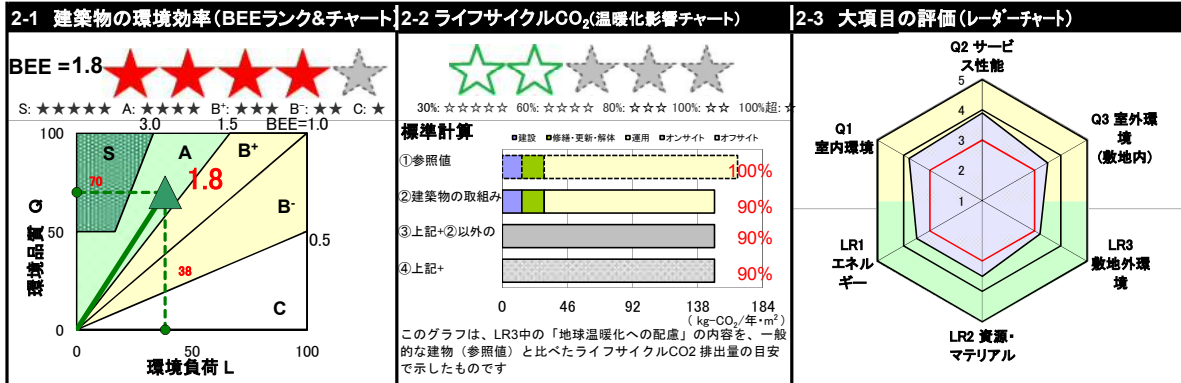


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田地域医療センター	階数	地上7F
建設地	愛知県豊田市西山町3丁目30番地1	構造	SRC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	400 人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2018年2月9日
敷地面積	20,827 m ²	作成者	稲本 龍治
建築面積	4,599 m ²	確認日	2018年2月10日
延床面積	16,487 m ²	確認者	稲本 龍治



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>24.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>11.1 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	24.0 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	11.1 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	24.0 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	11.1 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>県産木質内装材</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														3.7	
Q1 室内環境														3.8	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														0.40	
騒音レベル:45dBA以下														3.7	
1.2 遮音														0.40	
性能等級:T-2														4.0	
1 開口部遮音性能														3.8	
2 界壁遮音性能														0.40	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														5.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														0.40	
														0.20	
														3.0	
2 温熱環境														0.35	
2.1 室温制御														3.5	
1 室温														3.3	
2 外皮性能														0.50	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														0.38	
ゾーン別に冷暖房の選択が可能なシステムとしている														3.0	
加湿機能、除湿機能を有している														4.0	
2.3 空調方式														0.25	
居住域の上下温度差や気流速度が少なくなるように配慮している														5.0	
														0.20	
														3.0	
3 光・視環境														0.25	
3.1 昼光利用														3.6	
共用部2.5%以上、病室1.25%以上としている														4.1	
1 昼光率														4.2	
2 方位別開口														0.30	
3 昼光利用設備														3.6	
3.2 グレア対策														0.60	
カーテン及び庇により昼光制御している														4.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														1.00	
1作業単位で照明制御ができ、かつ端末・リモコン等で調整できる														3.0	
3.4 照明制御														0.15	
														5.0	
														0.25	
4 空気質環境														0.25	
4.1 発生源対策														4.5	
F☆☆☆☆を全面的に採用しホルムアルデヒド以外のVOCも考慮														4.0	
1 化学汚染物質														5.0	
4.2 換気														1.00	
給気口は排気口から6m以上の離隔														5.0	
1 換気量														0.30	
2 自然換気性能														2.3	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														0.33	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														1.0	
敷地内を禁煙としている														5.0	
														0.20	
														-	
														-	
														1.00	
Q2 サービス性能														0.30	
1 機能性														-	
1.1 機能性・使いやすさ														0.30	
個室10㎡/床及び多床室8㎡/床以上確保														4.0	
1 広さ・収納性														4.8	
2 高度情報通信設備対応														4.8	
3 バリアフリー計画														1.00	
1.2 心理性・快適性														0.60	
天井高さ2.60m														5.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														0.30	
2 リフレッシュスペース														4.5	
3 内装計画														4.5	
内装計画段階でコンセプトを反映するための取り組みを行っている														0.40	
1.3 維持管理														0.50	
仕上り材の防汚性や耐候性に配慮している														5.0	
1 維持管理に配慮した設計														0.50	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
清掃関係に必要な資材庫や洗い場等のスペースを確保														0.50	
2 耐用性・信頼性														4.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.31	
I類相当の耐震安全性を確保している。														5.0	
免震構造を採用している。														0.48	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														5.0	
2 免震・制震・制振性能														0.80	
2.2 部品・部材の耐用年数														0.20	
ステンレスダクトやガルバリウムダクトなどの長寿命化を図っている														2.9	
1 躯体材料の耐用年数														0.33	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														0.23	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														2.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														0.23	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														0.09	
電気、ガスによる熱源種の分散化、熱源を複数台設置														5.0	
受水槽の2槽分離、災害時排水槽の設置														0.20	
1 空調・換気設備														5.0	
2 給排水・衛生設備														0.20	
3 電気設備														5.0	
4 機械・配管支持方法														0.20	
5 通信・情報設備														4.0	
非常用発電設備、無停電電源設備等の設置														0.20	
耐震クラスAを採用														5.0	
光ケーブル、メタルケーブル、携帯電話網等の多様化を図っている														0.20	

3 対応性・更新性				3.2	0.29	3.8	3.8	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31	4.6	4.6	0.50	
1 階高のゆとり			病室部分、階高4.0m	5.0	0.60		5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			病室部分、壁比率長さ0.22	3.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				2.6	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				2.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	植栽により、良好な景観を形成している。	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	県産木質内装材の利用	4.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.87	4.3	0.30			-	4.3
2 自然エネルギー利用			太陽集熱を熱源に利用	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化				2.6	0.30			-	2.6
4 効率的運用				3.5	0.20			-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00			-	
4.1 モニタリング			消費特性の傾向把握・分析を行っている	4.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.5
1 水資源保護				3.8	0.15			-	3.8
1.1 節水			節水型衛生器具を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無			雨水を雑用水として利用	4.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材に自然素材を用いている	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、シーリング、塗料、塗床等	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算スコア:3.3	3.3	0.33			-	3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	建物利用のための自転車置き場及び駐車スペースの確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70			-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

豊田地域医療センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	4.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:24%/建物緑化:11.1%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	県産木質内装材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>豊田地域医療センター再整備のグランドコンセプトである「お年寄りに優しい医療を目指す」のための計画としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郊外型の地域景観に馴染むために、既設病院ボリュームに合わせてセットバックする圧迫感のない外観シルエット。 ・免振構造を採用し、災害時には機能を強化できるようライフラインを多重化し、自然エネルギーを活用した計画。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内部負荷の分布などを考慮し、適切な空調ゾーニングを行っている。 ・内装材にはF☆☆☆☆を採用。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・内装計画において、地産木などの素材をアクセントで使用し、自然素材の温かみや風合いを感じさせる空間としている。 ・地域に開放された屋上庭園。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に親しまれる病院、環境に優しい病院を表現する手法として、地域種を主とした樹種を用いたみどりづくりをしている。 ・駐車場を高木、低木等で緑化するとともに、遊歩道や屋上庭園は、リハビリ機能や地域の方も散歩できる形態とし、健康維持と回復支援となる計画とした。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽集熱、井戸設備などの自然エネルギーの利用。 ・ポイントデータを収集しデータベース化を行うことを計画している。 ・用途別計量を行い、エネルギー管理システム(BEMS)を導入している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水型衛生器具を採用 ・雨水を雑用水として利用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の配置にあたり、敷地境界から壁面線後退させ、高層部はさらにセットバックさせた。 ・敷地内に十分な駐車スペースを確保。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>